

高温に対する農業技術対策（要約）

平成30年7月20日
とっとり農業戦略課

中国地方の梅雨明けは7月9日頃で、平年より12日（昨年より4日）早く、梅雨明け以降、降水のない状態が続いています。かん水等の農作物の管理に十分な注意が必要です。また、気温の高い状態が続いていますので、高温時の作業を控え、水分補給を十分に行うなど、熱中症対策を徹底しましょう。

1. 熱中症

- ・炎天下や高温高湿条件（高温のハウスや作業場）での作業は控える。
- ・農作業に出かける前に、コップ一杯の水分を飲んで出かける。農作業現場には必ず飲み物を持参し、こまめに水分と同時に塩分も補給する。
- ・作業後にも水分をとり、失われた水分を補給する。

2. 水稲

- ・既に配布しているマニュアルに基づき、節水栽培を実施する。用水の節約につとめ、幼穂形成期を迎えているほ場から順次入水する。
- ・出穂後の水管理は間断かん水を基本とし、掛け流しは行わない。
- ・穂ばらみ期から乳熟期にある水稲への給水を優先する。

3. 大豆

- ・再播種するほ場ではやや深めの播種深度で播種する。
- ・開花期から着莢期は積極的に畝間かん水し、着莢率を高め、増収をはかるとともに収穫期の青立ちを防止する。

4. ナシ・カキ

- ・収穫開始1週間前まで、を目安にかん水を行う。赤土園では7日、黒ボク園では10日の連続晴天を目安にかん水を実施する。なお、収穫前のナシは、糖度低下の影響が考えられるのでかん水は実施しない。
- ・根域の浅い幼木は乾燥に弱いので、早めのかん水を心がけ、マルチを徹底する。
- ・ジョイント仕立て用苗木、ジョイント植付け後2年程度は、こまめにかん水を実施する。

5. 施設園芸作物（共通）

- ・ハウス全体を寒冷紗（遮光率 40%程度）で覆い遮光する。ハウス側面や出入り口はできる限り大きく開放する。また、換気扇や循環扇を活用し、換気を行う。
- ・屋根散水が可能な場合は日中、寒冷紗の上から散水し、ハウス内気温低下を図る。
- ・高温・乾燥時は作物の蒸散が激しいので、朝または夕方に適量のかん水を行う。

6. 露地野菜

- ・かん水可能なほ場では朝または夕方の涼しい時間帯にかん水を行い、樹勢維持に努める。ただし、ほ場内に滞水しないよう、特に水田転換畑では排水対策を実施した上で注意して行う。
- ・定植後はかん水を行い、活着を促進する。
- ・白ネギはネギアザミウマが激発となりやすいので防除を徹底する。

7. 花き

- ・施設園芸作物に準じる。
- ・露地品目は朝夕の涼しい時間帯に適切に灌水する。

8. 畜産

- ・送風、換気、床管理、細霧冷房、屋根散水等、対応できる暑熱対策の万全を期す。
- ・新鮮な飲用水の確保を図る。
- ・呼吸の荒い家畜などには直接、冷水をかけるなど緊急対応を行い、診療は早めに行う。

熱中症は予防が大事

熱中症を知って、きちんと予防しましょう

熱中症とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、次のような症状が現れます。

めまい・失神

筋肉痛・筋肉の硬直

大量発汗

頭痛・気分の不快・吐き気・おう吐・倦怠感・虚脱感

意識障害・痙攣・手足の運動障害

高体温

高温多湿な環境では熱中症が多発します

熱中症は
予防が大切



周囲の人にも気配りを

のどがかわいてなくても



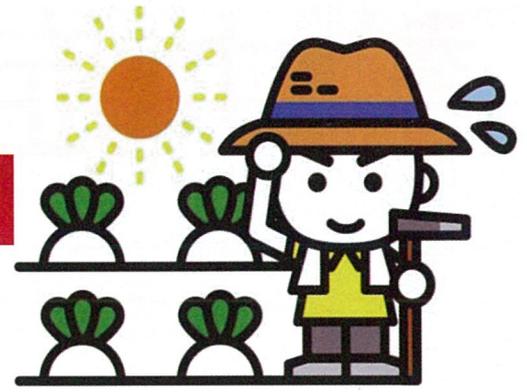
水分補給を!



鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

問合せ先 鳥取市東町1-220 (県庁とっとり農業戦略課内) 電話0857-26-7327

熱中症の予防管理



1 作業管理

(1) 作業を行う時間など

- 気温の高い時間帯の作業を避けます。
- 県では最高気温30℃以上が予想される場合、**熱中症警報**を出していますので、警報が出ている日の作業は避ける、短時間で終了する等作業計画を工夫します。

(2) 水分・塩分の摂取

- 農作業の前後、農作業中に定期的に**水・塩分**を摂取します。
※少なくとも、0.1～0.2%の食塩水(コップ1杯の水にひとつまみの塩)、または、ナトリウム40～80mg/100mlのスポーツドリンクなどを、20分ごとに、カップ1～2杯程度摂取することが望ましいところです。

(3) 服装等

- 熱を吸収する服装、保熱しやすい服装は避け、透湿性・通気性の良い服装を着用します。
- 直射日光下では、通気性の良い帽子などを着用します。

2 健康管理

日常の健康管理等

- 睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、感冒などによる発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。
- 熱中症の発症に影響を与えるおそれのある疾患(※)の治療中の方は高温多湿の中での農作業は特に要注意です。
※糖尿病、高血圧症、心疾患、腎不全、精神・神経関係の疾患、広範囲の皮膚疾患などがあります。